

釧路市中部地区コミュニティセンター（コアかがやき）

開催日時	2018年(平成30年)10月25日(木) 18:30～20:00
会場	学習室兼会議室 A・B
参加人数	20人
出席議員	渡辺 慶藏 議長 鶴間 秀典 議員（議会運営委員会委員、議会広報特別委員会委員：司会） 高橋 一彦 議員（総務文教常任委員会委員） 戸田 悟 議員（経済建設常任委員会委員） 松橋 尚文 議員（民生福祉常任委員会委員長） 畑中 優周 議員（石炭対策・関連エネルギー調査特別委員会委員） 村上 和繁 議員（都心部市街地整備特別委員会委員長）

意見	<p>美原公営住宅M1からM5までを、10年計画で全て更地にするということが新聞に載ったので、市の住宅課に説明に来てほしいと要望したが、あくまで計画であって、壊す2年前にどうするか聞くので、それまでは説明もしないと言われた。今も空き住宅がたくさんあり、市は町内会への加入を推進しているが、そのような骨抜きの中での町内会を運営していくことは難しい。美原は、障がい者と健常者が仲良く過ごすノーマライゼーションの北海道のモデル地区ということにつくられ、すごく環境が良く安全で生活しやすいところなのに、果たしてそのように建物を壊していったいいものなのか。美原という地域を改めて検討してもらいたい。</p>
戸田議員	<p>コンクリート建築物の耐用年数は基本的に50年なので、時期を見て古い建物を壊してどういうふうにするか、さまざまな住環境も含め全体的に見た中で、市は住宅マスタープランという計画をつくっている。建物を壊す際には住み替えをどうするかといった要望を全部聞いていくし、改築するのかどうかといったことも含めて地域の皆さんと協議しながら進めていく。ただ、計画どおりにできるかは市の財政や人口の状況もあるので、あくまでその時期が来れば行政側として説明させてもらうというのは、間違った言い方ではない。</p>
松橋議員	<p>今は美原だけではなく全市的に、地域のコミュニティや町内会のあり方が非常に難しくなっているが、それぞれの地域の特性に合ったコミュニティの運営を考えていけばよいのではないかと思っている。災害時において、お祭りなどの行事をしている地域としていない地域で</p>

	は、生存率が大きく変わってくるというデータもある。災害時は行政が動き出すまでに相当な時間がかかるので、普段からの隣近所との付き合いを、これまで以上にやっていく必要があるのではないか。
意見	今は夫や妻が亡くなって一人暮らしをしている人が多いが、そういう人がちゃんと住み替えさせてもらえるのかという不安もある。
戸田議員	今は公営住宅の申し込みの半分近くを単身者が占めるようになっている。行政はそういった状況を把握した上で、皆さんが地域貢献をしながら喜んで住んでもらえる環境にしようという基本的な考え方の下で計画をつくっているので、ご理解願いたい。

質問	本会議の傍聴者はどれくらいいるのか。
鶴間議員	平成 29 年の実績では、2 月定例会で 80 名、6 月定例会で 41 名、9 月定例会で 41 名、12 月定例会で 31 名、合計 193 名である。

質問	音別町でも議会報告会を開催することだが、音別町の住民の意見をどう聞くのか。
渡辺議長	合併してから 10 年以上経過し、釧路市としては音別町と阿寒町との一体感をつくるために最大限努力し、取り組んできている。地域のイベントに対するいろいろな形での支援や、コミュニティセンターや消防署など新しい建物の整備、また、小学校の一泊研修で音別町に宿泊して連帯感をつくるか、地域の特色ある産業として富貴紙を最大限活用し、いろいろな形で商品化し、全道、全国にも発信していくということなどを含めて、まだまだ差はあるかもしれないが、音別地域の皆さんとの一体感づくりに力を入れて取り組んできている。

意見	J R 北海道の問題は、国が全て責任を持つべきものであり、そのことを道民に周知するために、全道一斉に署名運動などの道民運動を展開する、それが市町村や道議会の仕事ではないか。今までのやり方では決着がつかないし、先が全く見えない。幸い市長は、この点についてはある程度筋が通っていると思うので、議会も市長の考え方をバックアップしてほしい。
----	--

渡辺議長	<p>釧網本線と花咲線の維持、存続に、行政と議会を挙げて取り組んでいる。釧網本線は、釧路湿原国立公園、阿寒、摩周、知床も含めて、貴重な観光資源としての価値が今かなり高まり、浸透してきており、沿線自治体を含めて連携して取り組んでいる。また、花咲線は北方領土返還運動との関係もあるし、先日、根室で開催された会議のためにJRで行ったのだが、素晴らしい景観であった。そういう観点からも、維持、存続に向けた取り組みに力を入れていきたい。</p>
意見	<p>とても景色がいいのはよくわかっているが、そのことをもって膨大な資金をかけて鉄道を維持するのは非常に難しい。国に援助を頼むとか補助をお願いするといった姿勢そのものが間違っており、これまでの経過から言っても国がすべきことである。</p>
高橋議員	<p>花咲線と釧網本線は、地盤や枕木を含めて特急列車が走れない。これはJR北海道にやってほしいといっても無理であり、国にやってもらわないと難しい話であるので、私たちが国に対して一所懸命運動していきたい。根室と網走の議員とも意見交換しているが、こうした運営上の問題はそれぞれで違う考え方があり、国の力がないとこれだけの広さを持つ北海道では難しいのではないかと感じている。</p>
戸田議員	<p>先祖が開拓してくれた北海道を次の世代に継承し、生きる環境をつくるためには、鉄路は国がしっかり責任を持って直すべきだし、国の支援の下で鉄路と車両をしっかりとサポートしてもらった上で、そこから先は地域の自治体や住民がどのように生かしていくか考えていくということにつながっていけば最良の形になると思う。</p>

質問	<p>現在、火力発電所が建設中だが、苫小牧ではCO2を分離、回収する新しい施設が稼働しているということである。今後、クリーンなエネルギーの社会に進行していく中で、石炭によるエネルギー確保というのは大変難しい状況だが、この産炭地を維持していくためにそういった関係の動きを教えてほしい。</p>
畑中議員	<p>火力発電所の建設に当たり、国と北海道の環境アセスメントという手続きを経て、環境問題には一切問題ないということで建設が進められている。釧路には、中国、ベトナム、インドネシア、コロンビアの4カ国の方々が来て炭鉱の技術を学んでいるが、この事業を末永く続けていくために、釧路の炭鉱で掘った石炭を火力発電所で使用し、足</p>

	<p>りなければベトナムや中国から安い石炭を買って発電していくという形で事業が進んでいる。市議会に報告されているのは、あくまで環境アセスメントの審査に通ったということで、CO₂が実際にどのくらい排出されるのかという報告はまだない。</p>
質 問	<p>環境アセスメントの評価は、どのように審査し認可されたのか。</p>
畑 中 議 員	<p>環境というとCO₂ももちろんあるが、周辺地域の振動や騒音といった部分もアセスメントの中に入っていると思う。釧路市が建設に協力する部分では、採炭所などから火力発電所まで石炭を運ぶ道路について、舗装改良や拡幅工事を来年度から実施する予定になっている。</p>

意 見	<p>美原2丁目の道路が、特に中央通りの歩道や緑地帯の遊歩道のマンホールが飛び出て周りが陥没していたりするなど、平らなところがないくらいでこぼこで、夜間に歩くのも危険な状態である。また、春先になると石垣から大きな石が歩道に転がってくるという状況になっているため、改善してほしい。</p>
戸 田 議 員	<p>要望については議会として受け止めて整理をして行政側に伝える。宅地造成をした所は歩道も車道もだんだん傷んでくるので、通常の道路補修とは別に予算を取っている。全市的に判断する中で段階的に直していく方針なので、ご理解願いたい。</p>

質 問	<p>釧路市の町内会加入率は、北海道内の他都市と比べると低い状況にあると思うが、加入率を上げていくために、どのようなことが必要だと考えているのか。</p>
松 橋 議 員	<p>全国的に、町内会のあり方というのは非常に変わってきている。ある団地の町内会が、町内会という名前だけ残して解散し、お祭りや餅つきといった事業だけをやるような新しいコミュニティをつくり成功しているそうであるが、町内会だけではなく、地域のいろいろなコミュニティが活発に活動していくことが大事なのではないか。私も町内会の会長をしているが、町内会のフェイスブックを見て引っ越してきた方もおり、活動しているほうが楽しくやることが大事なのではないか。非常に難しい課題ではあるが、それぞれの地域でいろいろと考えながら進めていかなければならないことなのではないか。</p>

質 問	中心市街地のにぎわいを取り戻すために、今何が必要と考えているのか。
村上議員	北大通3丁目、4丁目に新しく2棟のビルが建つので、その近辺のにぎわい創出の一つの核にしようということで、市としてさまざまな支援を行っている。もっと大きな話では、都心部は本来どのような機能を有するべきかといったことを市として検討している。その大きな事業が鉄道高架化であり、まちづくりの起爆剤にすること、そして災害時の安全性を確保するという2つの動機から検討している。昨年基本構想をまとめ、今年からは具体的な事業構想の検討に入っているが、その中では若い方々の意見をしっかり取り入れていくことが大事だと思っている。

質 問	先日、旧丸ト北村の解体に関する要望書への署名を求められたが、向かいのビルの有料老人ホーム棟から見ると屋根に草が生えていて、せっかくのいいまちの眺めにマイナスだと思うが、この問題に関してどのように考えているのか。
戸田議員	本来は建物の持ち主が整理するべき問題であるが、建物と土地の権利関係が輻輳しているために放置され、空きビルとなっているのが現状である。建物の周囲にフェンスを設置して安全措置を講じるとともに、国の事業を活用することができないか検討するなど対策を進めているので、ご理解願いたい。

質 問	釧路市の人口を増やすための対策について、議会としてどのように考えているのか聞きたい。
高橋議員	若い人たちが働く場所をいかに考えるかということだと思う。これまでの釧路の基幹産業は、石炭、製紙、水産、農業であったが、これからは観光も基幹産業にしようということで阿寒湖畔も含めた中でやっている。観光産業は裾野が広く、宿泊業や、バスなどの運送業、飲食業、お土産などの物産に関係する部分もあり、そういったことも含めて今釧路市は若い人たちの働く場所の創出に力を入れている。